

高等学校地理歴史（日本史 B）学習指導案

日 時 平成 28 年 11 月 2 日(水) 2 校時

指導者 教育センター所員 池田 尚史

単元名 「戦国時代」（「詳説日本史 B」山川出版社）

1 単元について

本単元は、高等学校学習指導要領地理歴史編の日本史 B の大項目「(2) 中世の日本と東アジア」の中項目「ウ 中世社会の展開」の「日本の諸地域の動向，日明貿易など東アジア世界との関係，産業経済の発展，庶民の台頭と下剋上，武家文化と公家文化の関わりや庶民文化の萌芽に着目して，中世社会の多様な展開，文化の特色とその成立の背景について考察させる。」を受け設定している。特に，15 世紀後半以降，戦国大名が全国各地に台頭し，独自の分国支配を行う地方権力が各地に登場した時代を扱っている。

まず，第一次では，本単元の導入として，前単元の室町幕府の展開を振り返るとともに，資料を用いて多面的・多角的に考察させながら，守護大名の衰退と戦国大名化の視点から戦国大名の登場について取り扱う。そして，第二次においては，戦国大名の分国支配について具体的に取り上げ，第三次で多面的・多角的に考察させるために必要な知識の習得を図る。最後に，第三次においては，第二次までの学習内容を踏まえつつ当時の国際環境の中で国人・宗教勢力・惣・自治都市などの動向を確認する。単元を通して戦国時代の主役は戦国大名だけではなく，国内の諸勢力が合従連衡しながら戦国時代が展開されていたことを多面的・多角的に考察させる。

2 単元の目標

戦国時代が戦国大名を始めとする中世社会における諸勢力によって展開されたことを，戦国大名の分国支配と自治都市の発展と東アジア世界との関係に着目しながら考察させる。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
戦国大名の分国支配と都市の発展に対する関心と課題意識を高めている。	戦国大名の台頭及び分国支配，都市の発展について国内の地理的条件と当時の国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。	戦国大名の分国支配と都市の発展に関する諸資料から，有用な情報を適切に選択して，読み取っている。	戦国大名の分国支配と都市の発展についての基本的な事柄を，守護大名の展開と関連付け理解し，その知識を身に付けている。

4 指導と評価の計画（全 5 時間）

次程 時配	学習活動	活用する資料等	評価の観点				評価規準 (評価方法)
			関	思	技	知	
単元の基軸となる問い：戦国時代を動かしたのは、どのような勢力か？							
第 一 次 2 時 間 扱 い (本 時 2 /2)	問い：15 世紀後半以降の「衰退する守護大名」と「戦国大名化する守護大名」の違いは？						
	<ul style="list-style-type: none"> ○守護大名の台頭とその後の展開についてワークシートにまとめる。 ○15 世紀後半以降の戦国大名化した守護大名のどのような特徴があるかを考察し、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・守護大名の任国に関する表と地図 ・守護大名の在京に関する資料 	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ◎必要な知識を精選して、適切に配置している。 (発言の内容, ワークシート) ◎戦国大名の台頭について, 守護大名の展開及び国内の地理的条件と関連付けて多面的・多角的に考察している。 (ワークシート)
第 二 次 2 時 間 扱 い	問い：戦国大名の分国支配とはどのようなものであったか？						
	<ul style="list-style-type: none"> ○戦国大名の分布を, ワークシートの地図に書き込む。 ○戦国大名の分国支配の特徴について, ワークシートにまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・戦国大名が制定した分国法をもとに, 家臣団統率の方法を読み取る。 ・農民支配や商工業の発展, 城下町の形成について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦国大名の分布図(16 世紀半ば) ・分国法の史料(「朝倉孝景条々」「甲州法度之次第」「今川仮名目録」など) 	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ◎戦国大名の分国支配と都市の発展についての基本的な事柄を理解している。 (ワークシート) ◎分国法から, 戦国大名の家臣団統率の方法について, 有用な情報を適切に選択して読み取っている。 (発言の内容, ワークシート)
第 三 次 1 時 間 扱 い	問い：戦国時代は、本当に「戦国大名の時代」といってよいだろうか？						
	<ul style="list-style-type: none"> ○戦国大名を取り巻く社会的・経済的・文化的環境について, 東アジア世界との関係を踏まえて総合的に考察し, 戦国時代を動かした要因についてワークシートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・史料「自由都市堺について」 	●	●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> ◎戦国大名以外に活躍した勢力について考察する上で, 都市の発展の様子についての関心を高めている。 (ワークシート) ◎戦国時代を, 多様な勢力の視点から多面的・多角的に考察している。 (ワークシート)
事後	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストの実施 		○	○	○		

5 本時の計画（2 / 5）

(1) 授業名 守護大名から戦国大名へ

(2) 目標

- ・戦国大名の台頭について、守護大名の展開及び国内の地理的条件と関連付けて多面的・多角的に考察させ、その結果を適切に表現させる。【思・判・表】

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点	活用する資料
導入 (5分)	○前時の学習内容を振り返りながら、本時の学習内容（問い）を把握する。	○発問を通して、生徒の気付きを引き出し、学習内容をつかませる。	
	15 世紀後半以降の「衰退した守護大名」と「戦国大名化した守護大名」にはどのような違いがあるか？		
展開 (30分)	○守護大名の任国に関する表から、気付いたことをワークシートの 1 に記入し、発表する。 (予想される発言の例) ・三管領や四職など、足利氏一門や有力な守護大名により多くの任国が認められる傾向がある。 ・足利氏一門の守護大名の任国が京都の近くに分布していて、外様は京都から離れた地域にある。 など	○発問とそれに対する生徒の回答を踏まえて、室町幕府の機構と幕府における守護大名の地位と役割を整理させる。	・ワークシートの表 ・教科書 p.126 「室町幕府の機構」
	○守護の在京に関する資料を読み、ワークシートの地図中に在京・在国の違いが分かるように区分する。区分を基に、関東や九州・山口の一部の守護大名が在京しなかった理由（在国した理由）を考え、ワークシートの 2 に記述する。 (予想される記述の例) ・今川氏などは関東、大内氏は九州の抑えとして在国していた。 ・室町幕府は、鎌倉公方としばしば対立したので、その監視のために在国した守護大名がいた。 など	○区分がより視覚化されるように、色分けをさせ、その色分けを基に考えるように促す。 ○九州探題の渋川氏については、理解が難しいので、発問しながら知識事項を補足する。	・資料「守護の在京」 ・教科書 p.124 「守護大名の分布と戦乱」 ・ワークシートの表及び地図

